



# 六郷中だより

六郷中学校だより 第4号

令和 4年 7月22日

発行・文責：校長 深澤裕治

<六中HP>



## 改めて、「正しく恐れる」判断と行動を！

あちこちのネムノキやサルスベリの花が目にとまる夏本番を迎えています。1月からの第6波の新型コロナの感染拡大が続く中、スタートした1学期。保護者の皆様方には、毎日の検温をはじめとする健康チェック、マスク・水筒の準備等の多大なご協力をいただき、校内では最新の知見に基づきながらの感染防止対策や熱中症対策を講じての学習活動を積み重ねてきた1学期。1000人を超える山梨県の新規感染者が発表され、全国的にも15万人超と過去最多を更新し(7/20現在)第7波の新型コロナの爆発的感染拡大の渦中となったタイミングで、六郷中学校は7月22日、1学期のしめくりとなる終業式を迎え、明日から、8月25日までの夏季休業となります。

本来、夏休みには、夏休みだからこそ経験できること、時間をかけてチャレンジすること、集中して取り組んでみるなど、日数をかけてみたり、繰り返し積み重ねてみたりと、普段なかなかできないことが可能となる、夏休みならではの意義や価値が夏休みにはあるはずですが、過去最多を更新している新型コロナの感染状況を考えると、学校生活から離れても、今までと同様に「マスクの着用、換気、3密の回避、手洗い等の基本的な感染対策」を行い、ぜひとも「マスクをはずしての会話をしないこと」を心掛け、夏休みを過ごしてもらえればと思います。

ちょうど一年前の夏休みの各学年の登校日に配布しました、昨年の「六郷中だより(第8号)」の内容の一部を、再掲で申し訳ありませんが紹介します。

『夏休みも、その先の2学期も、皆さんの未来です。これからのことですので、自分自身で作り出すこともできますし、新しいことに挑戦することもできる未来です。コツコツと時間をかけて継続して取り組むことができるチャンスとなるのも夏休みです。普段できないこと、時間をかけてやってみたいこと、挑戦してみたいことなど、チャレンジしてみてください。それが目標であり、計画だと思っています。ぜひ、よりよい夏休みとなるよう、先を見通してみてください。』

『何かを行ったり、判断するときのアドバイスをお伝えします。それは「直感に頼らない」こと、そして「正しく恐れる」こと。新型コロナへの感染はもちろんですが、外出先での誘惑や誘い、ネットを使う際のルールやマナー、エチケットなど、ぜひ正しい選択ができるよう「直感に頼らない」こと「正しく恐れる」ことを心にとめて、夏休みを過ごしてください。(略)感染者が多く緊急事態宣言が出されている都府県のみならず、山梨県においても、8月5日現在、一日の感染者数は過去最多の49人となり、非常に深刻な状況であると報じられています。「正しく恐れる」は、「天災は忘れた頃に来る」の言葉で知られる物理学者・地震学者の寺田寅彦(1878~1935年)が記した「ものをこわがらな過ぎたり、こわがり過ぎたりするのはやさしいが、正當にこわがることはなかなかむづかしい」に基づくものです。新型コロナウイルス感染症へのリスクに対して、感情や感覚的な判断基準によらず、正しい情報と状況とを理解し、対応するために、今まさに寺田寅彦の戒めとしての「正しく恐れる」ことの重要さが求められていると思います。2学期に向けて、生徒にとって、心も体も成長する夏休みとなるよう、「直感に頼らず、正しく恐れる」を判断基準として、行動するようお願いしています。』

昨年の夏休みから一年が経ちましたが、過去最多の新規感染者は単純比較ですが約20倍となり、緊急事態宣言などの行動制限がなされていない分、感染リスクに対しては自分自身の判断や行動が昨年以上に求められる夏休みとなっています。昨年の夏にお伝えした「直感に頼らず、正しく恐れる」ですが昨年と同様に夏休みの生活や行動の判断基準となると思い、改めて紹介しました。

オミクロン株の「BA・5」への置き換わりが進み、重症化が少ないとも言われています。仮に新型コロナの感染者(陽性者)になった場合、有症状の場合には保健所からの指導助言のもと10日間、無症状であっても7日間の療養となり、また、感染者の家族などの濃厚接触者の場合も原則7日間の自宅待機が義務づけられています。これからの夏休みが有意義なものとなり、療養や自宅待機とならないよう、攻めと守りのバランスに向けて、正しく恐れる判断と行動を願っています。